

五戸総合病院での研修を終えて

令和2年2月
順天堂大学医学部附属浦安病院
初期臨床研修医 後藤英介

果たして縁も所縁もない遠い五戸という地で、自分が医療に貢献することができるのか、生活や気候も含めた環境への不安も尽きない行き道中を、まるで昨日のことのよう思い出せます。研修医生活も終盤に差し掛かり、様々なことを経験させて頂いた後ですが、その中でも地域研修というのは大分毛色の異なるものであり、幾許かの自分への期待と圧倒的な心許なさを胸に秘めて、初日を迎えました。

大学病院は先進的、中核的医療機関であり、それ故に自分が将来担当する医療の幅はより細分化され、より専門性を持つ—そんな観念をつい抱きがちですが、もちろん地域医療においてはその考えは通用せず、大前提として自分は医師であるという当たり前の事実を突き付けられます。五戸総合病院も同様に医療及び人的資源は限られており、その一方で抱える疾患は当然のように多岐に渡るとい現状で、自分に求められる知識や手技は今までのそれよりもより広範囲に及びました。外科で研修しつつも、内科領域は言うまでもなく、往診や訪問診療などのより地域に密着した医療、加えて検診から検視までといった具合に幅広い医療に直面し、それに対応できる力を求められる1か月でしたが、それは同時に、常に実践と反省を繰り返す日々でもあり、とても充実していました。そして、限られた資源で様々な疾患に直面し対応していく環境は、逆に、今までになく広い視野を持って医療に携わるようになるきっかけになったように思います。それは偏に安藤院長、小林先生が、様々な疾患に向き合うために、専門外の事も含めて常に知見を深めようと医療に取り組み、また患者さんと深い信頼関係を築かれている姿に、将来自分が目指す医師像を垣間見たからかもしれません。

来月からまた、順天堂大学医学部附属浦安病院での仕事が始まるわけですが、この1か月で学んだ知識や手技、医師としての心構えをしっかりと忘れずにいたいと思います。また、向かうときは漠然とすら想像できていなかった五戸という地で、諸先生方や看護師さん含め多くの方々が、今この瞬間も医療に取り組みされているという実感を大切にして、自分も負けないように一生懸命精進していきたいと思います。

最後になりましたが、今回の研修に際し、多くの皆様にご配慮頂き、有意義な研修ができたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。